

都道府県・ 指定都市番号	都道府県・ 指定都市名	研究課題番号・校種名	1 高等学校
		教科名	
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>教科「水産」において、水産・海洋の諸課題を科学的に考察し解決するために必要とされる思考力・判断力・表現力等を育成するための主体的・対話的で深い学びを通じた学習指導及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p>		
ふりがな 学校名（生徒数）	ふくおかけんりつすいさんこうとうがっこう 福岡県立水産高等学校（450人）		
所在地（電話番号）	〒811-3304 福岡県福津市津屋崎4-46-14（電話 0940-52-0158）		
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://suisan.fku.ed.jp/		
研究のキーワード	水産 水産海洋基礎 授業改善 評価方法		
研究結果のポイント	<p>○「水産海洋基礎」【基礎実習】において、思考力・判断力・表現力等を育成するための指導方法、単元ごとの評価規準について改善を図る。</p> <p>○授業形態及び評価方法についての「評価シート」、「生徒自己評価シート」を研究開発し、実践する。</p> <p>○「水産海洋基礎」【基礎実習】において、教師及び生徒が ICT を活用する授業の在り方について研究する。</p> <p>○ 教員及び実習助手を対象としてアクティブ・ラーニングの視点についての研修を行い、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための「学習指導案」を作成し、モデルとなるよう情報発信を行う。</p>		

1 研究主題等

(1) 研究主題

<p>教科「水産」において、水産・海洋の諸課題を科学的に考察し解決するために必要とされる思考力・判断力・表現力等を育成するための主体的・対話的で深い学びを通じた学習指導及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p>

(2) 研究主題設定の理由

本校は創立 65 年目を迎え、「海にまなび 食にまなぶ 水高」のスローガンのもと、水産・海洋教育を行う唯一の県立高等学校である。本校では、1 年次に全学科共通の教育課程を編成し、2 年次から学科・コース選択を行い、生徒の希望進路実現に向けて特色ある教育活動を行っている。

本校においては、専門的な知識・技術の習得や資格取得だけではなく、思考力・判断力・表現力等を向上させるための授業改善と、実習における思考力・判断力・表現力等を測定するための

観点別評価を十分に進めることができていない現状がある。そのために、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を実践し、その評価の在り方を研究していく。

ア 「主体的な学び」

学習活動に意欲的に取り組ませるとともに、自己の活動をふりかえる「生徒自己評価シート」を作成し、次につながる学習を進める。

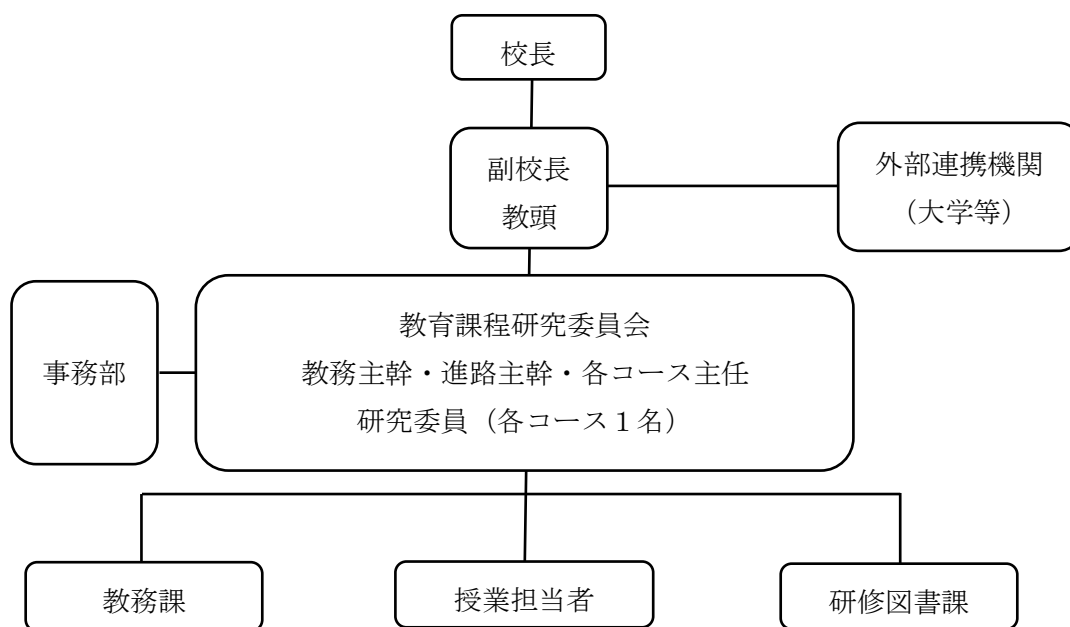
イ 「対話的な学び」

生徒同士の協働、教職員や外部（地域）の人との対話を通して、自己の考えを深める授業方法について研究を行う。

ウ 「深い学び」

学びの過程で、知識を相互に関連付けてより深く理解するために、「評価シート」を活用し、情報を精査して考えを形成し、課題解決に向けた資質・能力を育成する。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成30年度	1 学期
	<p>ア 研究委員会(4月)(担当国会議) 研究体制確認・研究内容確認 水産海洋基礎【基礎実習】の年間指導計画、観点別評価・成績の確認 等 生徒意識調査(アンケート)の検討</p> <p>イ 生徒意識調査(アンケート)実施(7月)1年生全員を対象</p>
	2 学期
	<p>ア 研究委員会(8月、9月)(担当国会議) 生徒意識調査(アンケート)集計、まとめ 新たな観点別評価の検討・開発 「評価シート」の作成・実施</p>

<p>イ 先進校視察（11月）三重県立水産高等学校 施設見学、「水産海洋基礎」【基礎実習】授業参観 評価方法等研究内容の説明</p> <p>ウ 教育課程研究指定事業に係る調査官による学校視察（11月） 研究授業「水産海洋基礎」【基礎実習】 研究協議「主体的・対話的で深い学び」の学習指導につなげる工夫改善 講義「新学習指導要領について」</p> <p>エ 福岡県「新たな学びプロジェクト」事業ポスター発表・公開授業見学（10、11月） 於：福岡県立光陵高等学校</p> <p>3学期</p> <p>ア 研究委員会（担当者会議）（12月） 「深い学び」のための「生徒自己評価表」の検討・開発・実施 生徒意識調査（アンケート） 次年度に向けた研究の進め方検討</p> <p>イ 研究協議会発表原稿・資料作成（中間報告）（12月）</p> <p>ウ 研究協議会発表（中間報告）（1月）</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 思考力・判断力・表現力等を育成するための指導方法、単元ごとの評価規準について改善
- イ 「評価シート」、「生徒自己評価シート」の作成と実践
- ウ ICT機器を活用した授業改善

(2) 具体的な研究活動

- ア 思考力・判断力・表現力等を育成するための指導方法、単元ごとの評価規準について改善
「水産海洋基礎」【基礎実習】では、各学科で複数の担当教員で実習を実施している。そのため、各学科で共通する単元については、評価項目、評価規準について統一を図ることができた。また、指導方法の工夫を行うために、ペア活動や班活動などの生徒同士の学び合い活動などを積極的に取り入れた学習を行った。さらに、専門分野のより深い学びを実現するために、課題実習を4種目（航海系実習・機関係実習・食品系実習・増殖系実習）設定した。
- イ 「評価シート」、「生徒自己評価シート」の作成と実践

「水産海洋基礎」【基礎実習】において観点別評価に基づいた「評価シート」を作成し、生徒の実習の評価を行った。また、「生徒自己評価シート」を作成し、生徒の学習目標や理解度を点検し、「深い学び」につながる授業になっているか検証した。

三重県立水産高等学校への先進校視察では、「水産海洋基礎」【基礎実習】の指導内容（実習ノートの活用等）と評価の在り方（観点別評価に基づく評価シートとルーブリックによる評価シート、生徒自己評価等）について説明を受けた。

ウ ICT機器を活用した授業改善

若手教員を対象に ICT 機器（電子黒板等）の効果的な活用方法等の職員研修を行った。特に、電子黒板の活用の研修では、動画の効果的な活用について研修を行い、視覚的な教材を積極的に活用した授業づくりを進めることができた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 生徒意識調査を実施したところ、自分の将来のことを真剣に考え専門分野の学習に取り組みたいと考えていることがわかった。また、生徒の本校に対する期待とともに、水産・海洋のどの分野に興味・関心を持って授業に取り組んでいるかを把握することができた。
- 「水産海洋基礎」【基礎実習】において、思考力・判断力・表現力等を育成するために、指導方法の改善や評価規準及び基準の作成について共通認識を持って取り組むことができた。
- 観点別評価に基づいた「評価シート」を作成し、複数の教員で同時に生徒の実習の評価を行うことができた。また、「生徒自己評価シート」では、生徒の学習目標や理解度を点検し、指導と評価の一体化を図ることができた。
- ICT（電子黒板等）の効果的な活用について職員研修を実施し、教員の授業改善に向けた意識を高揚できた。
- 指導方法・評価規準に関する研究を進め、授業改善や評価規準に関する職員の理解を深めることができた。
- 「評価シート」、「生徒自己評価シート」については、「水産海洋基礎」に限定せず、他の科目でも活用できるように研究開発を進める。
- 生徒による授業評価を行くことにより教員の自己満足の授業改善にならないように、入学直後と学年末の生徒授業アンケートを比較することで、研究成果の検証を行う。
- 生徒の授業アンケート結果を分析し、授業改善と評価シート等の改善を図る。
- 作成した評価シート及び授業実践について外部機関から指導・助言を受け、評価シートの完成と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る。
- より適切な評定のあり方に向けて、引き続き研究協議を継続するとともに、外部機関との連携協定締結を図る。

4 今後の取組

- (1) 水産の他の専門科目についての観点別評価に基づいた評価方法について研究・開発し、実践する。
- (2) アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業づくりに関する研修を継続して実施する。
- (3) 2年次の「総合実習」で実施する企業見学研修向けに、「水産海洋基礎」から継続した、指導計画と、記入用紙の作成を研究する。
- (4) 生徒が自分の状況を知るためのポートフォリオについて研究・開発し、実践する。
- (5) 教員間の連携を密にし、授業改善の方法、評価の在り方、生徒の指導について共有化を図る。